

平成 19 年 9 月 6 日

三井物産エアロスペース株式会社

秋 山 登

平成 19 年度横田基地研修所感文

研修団は、9:30 分JR福生駅に集合し、バス(横田基地支援)にて研修会場へと向かった。横田基地入門の際には、抜打ちのIDチェックがあり、“在日米軍の現状”を垣間見ることができた。無事抜打ち検査をパスし、一行はブリーフィング会場へと向かった。

第 374 空輸航空団広報部長の挨拶後、広報部阿部氏によるブリーフィングが実施された。同ブリーフィングでは、『横田基地の歴史』、『第 374 空輸航空団の編成と任務』、『日米の文化の違い』等にご説明いただき、研修参加者は非常に興味深く、熱心に聴講していた。スマトラ沖地震時のC-130 人道支援派遣、防災の日に実施された日米共同訓練等の説明により、第 5 空軍の国連軍としての役割、および災害時の日米協力体制を深く理解できた。

その後、滑走路へと移動し、駐機中のC-130 の見学を実施した。C-130 の性能、役割、また、ミッション遂行時における具体的なオペレーション方法などにつき米隊員より説明を受けた。実機を前にしてのブリーフィングは、ミッション時の状況などが想像でき、理解を深めることができた。新潟中越地震時に、C-130 が支援派遣され、支援物資の搬送で協力があったことも説明され、感慨深い様子で参加者は話しに聞き入っていた。また、コックピットの見学や、装備品であるパラシュートを装着させて頂いたり、大変貴重な体験をさせて頂きました。本年の11月には日米共同演習が実施され、陸上自衛隊空挺団が米軍C-130 よりダイブ予定であると伺いました。

C-130 見学後、将校クラブにて昼食会が実施されました。本会には基地司令ジョン F. ニューウェル大佐にもご参加いただきました。各テーブルへは、基地主要指揮官にご着席いただき、質問や談笑で賑わいをみせた食事会であり、友好を深めることができました。

昼食後、横田基地内にあるAFN(American Force Network)を見学となりました。世界展開する米軍の象徴ともいえる本施設は、好奇心を掻くものでもあった。実際のテレビ収録スタジオの見学、生放送中のラジオブース内を見学することができた。ラジオブース内では、「先般の防災訓練の際は、ここから災害発生の通知がなされた」と伺い、有事の際のAFNの任務の一端を覗くことができた。

最後に、Passenger Cargo terminal の見学となった。Passenger terminal は、チェックインカウンター、手荷物検査場、ラウンジなど民間空港と同様の機能を有しており、まさに『横田基地の空の玄関』であった。また、横田基地のみならず、三沢、佐世保、厚木、また、ここを中継地として各国へ搬送される Cargo が集結するCargo Terminal では、第 374 空輸航空団の『空輸の軸』としての任務を肌で感じることができた。その後、バスツアーにて基地内見学をし、本研修は終了となった。

本研修では、実機・施設見学にて貴重な体験をさせて頂いたと同時に、ブリーフィング・懇親等より、在日米軍の任務、日米安保体制の重要性などを再認識することができ、大変有意義な研修でありました。

本研修に実施にあたり、ご尽力いただきましたJAAGA理事各位、横田基地関係各位に、深く御礼申し上げます。

以上